北京冬季五輪が運命を変えた小さな町、そして人々

中国や香港に関する良質の論評記事を有料（一部無料）で配信している「端傳媒 InitiumMedia」が、北京冬季五輪のスキーやスノボ会場となった張家口市崇礼区を訪れたルポを報じていたので、冒頭の無料部分をすこし超えて訳しました。訳したのは全体の約4分の1です。原文はこちら https://theinitium.com/article/20211203-mainland-beijing-winter-olympics/ なお中国国内のサイトで誰かが無断で全文と写真を掲載していました。https://ujoy.net/topics/4992101 崇礼区の太子城エリアのスキー場についての日本語の情報はこちらなど。太子城氷雪タウン https://on.china.cn/3DLsZyj 雲頂シークレットガーデンリゾート https://bit.ly/3rTmHKW

住民人口 10 万人の崇礼には、2 つの高速鉄道駅、7 つのスキー場、そして牛肉麺は北京と同じ値段だが、住民は「今年は 1 元も稼げない」と言っている。

【写真説明】2016 年 1 月 22 日、河北省崇礼の冬季オリンピックの建設現場と看板の前をカートを押して通り過ぎる村人。2015 年、崇礼はまだ人口 3 万人以下の国家指定の貧困県だったが、オリンピック招致後、崇礼は大きく変わり、行政区画も区に格上げされた。2019 年、崇礼は「貧困から脱却した」と発表しました。 Photo by Kevin Frayer/Getty Images

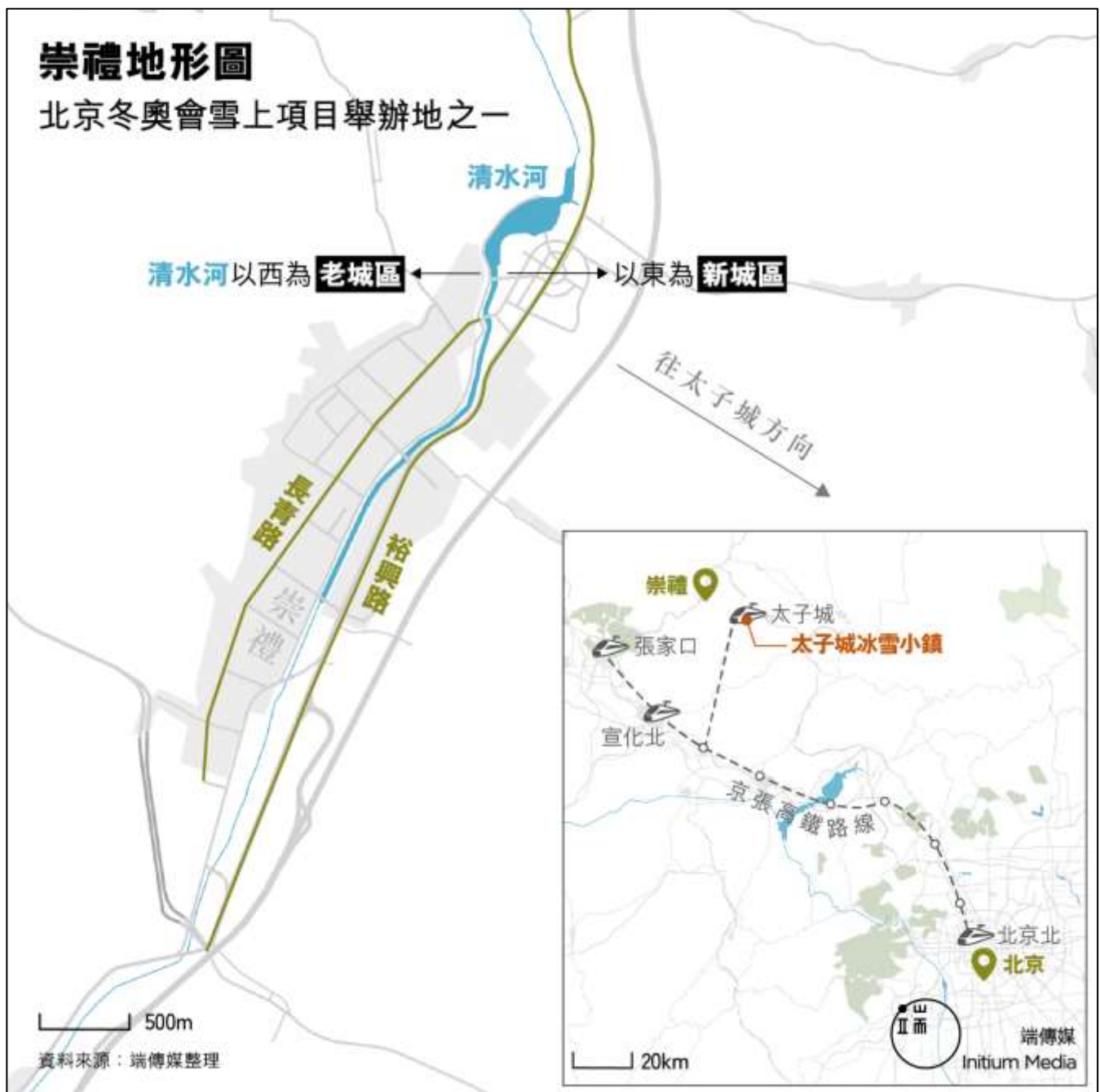
端傳媒／InitiumMedia
実習記者　張晉谷　2021-12-03（崇礼からのレポート）

姫発さんは黒いパーカーを着て、少し圧倒されたようにバーに立っている。1 階に長テーブルが 3 つある小さなバー。バーのマネージャー、KiKi さんによると、昨年の雪の季節の一番の繁盛期には、1 階と 2 階が満席で、忙しすぎてお酒も注げないほどで、「グラスが足りず、お客さんが自分でグラスを洗ってくれた」。

今年は、明らかにビジネスがうまくいっていない。バーには真新しいスキーウェアを着たスノーボーダーのテーブルが 2 つある。姫発さんに水を一杯くれと頼むと、彼はしばらくバーを物色した後、シンクに水道水を取りに行った。私は数分間、姫発さんと話をしてみた。BGM の音量が大きすぎて、大声を出さないと話ができない。

「以前はどこで働いていたの？」
「カラオケバー」
「どうしてここにいるの？」
「カラオケバーがコロナで閉鎖されたので。今日が初めての仕事です」

11 月初旬の崇礼は骨の髄まで冷える寒さを感じる。石畳の道からは風が静かに吹いていて、街は閑散としている。通りにあるほとんどの店はスノーショップで、わずかに明かりがついているだけで、店員たちは携帯電話をいじったり、スキー板を広げたりしている。

2015 年 7 月 31 日、IOC のトーマス・バッハ会長は、マレーシアのクアラルンプールで、北京が 2022 年冬季オリンピックの開催権を獲得したことを発表した。崇礼の人々は県庁の広場からの中継を見て、銅鑼や太鼓を打ち鳴らしてお祝いを始めた。 鮮やかな色の衣装を着て、小さな国旗を顔に貼り付けた女性たちが、満面の笑みで踊っていた。広場には「北京で花が開き、崇礼でも花が咲く」という大きなポスターが貼られていた。その夜、市街地では花火が打ち上げられ、数キロ離れた村にまで花火と音が届いた。

計画によると、冬季オリンピックの雪上競技のほとんどは、河北省の張家口市の崇礼区で開催される。北京から崇礼までは新高速鉄道と高速道路で結ばれており、崇礼から内蒙古のシリンホトまで高速鉄道が貫く。人口 10 万人のこの町には 2 つの高速鉄道駅があり、「内蒙古と北京を結ぶ重要な交通拠点となる」という。また崇礼には、冬季オリンピックタウン、メディアセンター、いくつかの競技会場が設置され、「国際的に有名な氷雪スポーツと氷雪観光の目的地を作る」といわれている。

冬季オリンピックで運命が変わったこの町は、幹線道路が 2 本しかない。新市街区には裕興路、旧市街区には長青路が走り、その間には清水河が流れている。

新市街のアスファルト道路は毎年舗装しなおされ、両側のヨーロッパ風の小さな建物は真新しい装飾が施され、カラフルに塗装されていて、まるで奇妙なおとぎ話のような町並みだ。幹線道路には歩行者はおらず、時折、車が走る。スノーショップやレストラン、ホテルなど、ほとんどのお店が閉まっている。お昼に 20 分ほど歩いてみたが、開いているレストランは 1 軒もなかった。

舗装された道路は、川を渡った先の旧市街エリアへと続いている。 道路は真新しいが、道路に面しているのは外壁に黄ばんだ白いタイルが貼られた荒廃した北方に多い長屋風の住宅棟。通りには数人の歩行者がいる。店のほとんどが小さな食堂で、羊の田舎炒め、莜麵〔北方の麺〕、鶏飯、西安肉饅などが並んでいる。正午を過ぎると、洋服の問屋街の階段や銀行の前、通りの角には、いつもお年寄りが座っている。みんな黒っぽい服を着ていて、白い頭巾をかぶった女性もいる〔つまり中国の伝統的な風景ということ〕。

2020 年の崇礼の GDP は 34 億ドルで、そのうちサービス業が 20 億元(58.6%)を占めている。崇礼のサービス業は基本的にスキー関連だ。崇礼の住民 5 万 7,000 人のうち、3 万人以上がスキー関連の産業に直接または間接的に関わっている。

今年は、ほとんどのスキー場が雪作りを始めたばかりで、シーズン開始の営業を始める前に、北京では新たなコロナが発生した。崇礼に入るには、48 時間以内の PCR 検査で陰性証明が必要で、さらに崇礼で「再検査」が必要となり、スキーヤーがゲレンデやホテルに宿泊するにはその陰性証明が必要となる。北京やその周辺から来るスキーヤーの数は激減している。

北京冬季オリンピックは 2022 年 2 月 4 日に開幕する。まだ発表されていないが、地元ではその時期はスキー場を閉鎖すると噂されており、観光客は崇礼市街地に入ることができなくなると言われている。スキー産業に大きく依存している崇礼は、この冬をどう乗り切っていいかわからない。

姫発さん(20歳) 「この町は小さすぎる」

姫発さんは背が高くて細く、少し顔色が悪く、ゆっくりと慎重に話す。崇礼の夜の冷たい風は、私の顔を刺激する。姫発さんは薄いパーカーを着ている。

彼の両親は北京の昌平で小さなレストランを経営しており、父親は崇礼出身、母親は宣化〔崇礼の隣の地区〕の出身。姫発は、北京郊外の村の学校で小学校に通い、中学で宣化に戻り、中学を卒業するまでにすでに働いていた。2001 年生まれの姫発は、すでに社会人として多くの経験を積んでいる。北京では、シェ

フ、インドアサーフィンのインストラクター、密苑雲頂大酒店〔シークレットガーデンリゾートホテル＝冬季五輪でメディアセンターになる〕の建設現場でのショベルカー、カラオケバーのウェイターなどを経験した。直近では、昨夜 1 日だけだがバーテンとして働いていた。

父親がコネを使って、雲頂大酒店のカフェラウンジの仕事を見つけてくれた。冬季五輪がはじまるとこの町は外から誰も入れなくなり、スキー客も来なくなるという噂だ。この地域では、冬季五輪の会場になっている雲頂スキー場だけが五輪のために運営されることになる。雲頂スキー場、太子城スケートタウン、高速鉄道駅はすべて〔崇礼区内の〕太子城地区にあり、崇礼の中心地から 20 キロも離れている。

冬季五輪は全日程をバブル下で運営管理され、「五輪要員」は専用車両に乗って指定された場所への行き来しかできなくなるという。大会期間の前後の隔離期間が必要となれば、ボランティアでも二か月はこのバブル下での生活を余儀なくされる。雲頂大酒店は冬季五輪ではメディアセンターになる。そこで働く姫発さんも隔離されることになる。

招致が決定した時、姫発さんはまだ宣化中学の学生だった。彼はまるでニュースでもみるように招致決定を受け止めたという。「開発で取り壊しが進んだけど、自分のところは無事だった」

2015 年、崇礼県は国家指定の貧困県で、人口も 3 万人に満たなかった。県内には四つの大型スキー場があり、政府は「旅行立県」を叫んでいた。五輪招致が決まった夜、崇礼県長の白銀梅さんは一時間しか寝られなかった。自分に冷静になるように言い聞かせ、「開発のプレッシャーと資本の誘惑に負けないよう、抑制力を崇礼の経済発展の核心的価値にしなければならない」と指示した。

2015 年 7 月 31 日、張家口市崇礼県の広場で 2022 年冬季五輪の招致決定を喜ぶ住民ら。撮影：Jason Lee/Reuters/達志影像

崇礼はその後、県長が考えたように激変した。彼も翌年には県長を辞めた。公式にはその後の進退は不明だ。2016 年、崇礼県は一つ上の行政区分の崇礼区に格上げされた。2019 年に崇礼区は「貧困を解消した」と宣言。高速道路、高速鉄道が崇礼にまで伸びはじめ、北京と崇礼を結ぶトンネルが次々と開通した。数百億元の投資マネーが崇礼に投じられ、スキー場、病院、移転住宅、氷雪小鎮アイス＆スノータウン〔ホテルや国際コンベンションセンターなどがある〕などの建設が相次いだ。

2019 年の建国 70 年を祝う閲兵式のために、政府は昌平区の土地を閲兵の訓練場用に徴用した。姫発さんの両親が経営していたレストランはその徴用区画にあった。「そこでは住めなくなった」ことからレストランを閉めた。オリンピック招致が決まると崇礼の不動産価格や物価が急上昇し「崇礼では何をするにもカネがかかった」。両親は父の故郷の崇礼には戻らず、母の故郷の宣化でレストランを再開した。

姫発は去年、太子城地区の建設現場で働いた。小型ショベルカーを操縦して雲頂大酒店の地下室を掘削した。日当 400 元で仕事が終わると SNS で雇い主に連絡すると、雇い主は「すぐ金を送ってきた」。現場にはあまり若者はおらず、掘削機の操縦は若い人向けではないと姫発さんは思った。毎日仕事からあがってもやることはないし、地下で掘削機を操縦し続ける作業は「面倒で嫌になる」。

建設の仕事を長く続けようかとも思ったが、「今後そういう機会があれば考えるかも」

「誰かが工事の仕事を紹介してくれたら？」
「たぶんやらないけどね」

姫発さんは工事の仕事を一か月やっただけで辞めて、市街地のカラオケバーで働き始めた。基本給は 6000 元余り、それにチップ、残業代などをあわせると 1 万5000元は稼げた。チップをもらうにはコツがあるという。大人数での貸し切り部屋、さらに女性同伴ならさらにチャンスがあるという。彼曰く、貸し切り部屋にあいさつにいってビールを一本サービスすると、大体はチップをくれる。それが 100 元になるか 200 元になるかはその時次第だという。

「こういう客はメンツが大事。うまく持ち上げればいい」

30 代の日本人がカラオケバーに来たこともある。最初かれは自分は少数民族だと名乗った。次に来た時、身分証を確認したとき、彼は日本のパスポートを出したという。崇礼区政府は、外国人を娯楽施設で接待しないように通達している。姫発さんはその日本人に店から出てほしいと伝えたところ、その日本人は前回も入れたじゃないかと文句を言った。

姫発さんは厳粛な口調でこう伝えた。「もしロシア人のように中国の友好民族なら、見て見ぬふりをしてもいいけど、あなたはそうじゃない」。その日本人は、どうして友好民族ではないのかと聞いてきた。「あなたたちの天皇に聞いてください。」と姫発さんは返事をした。
〔訳注：崇礼のある張家口市は 1925 年には内蒙古人民革命党の第一回大会が開催、中国共産党の創設者のひとり李大釗が労農兵大同盟の結成大会も開かれた。日本軍の傀儡国家「満州国」建国の翌年の 1933 年1月、関東軍が万里の長城をこえて熱河省に侵攻。反蒋戦争の敗北後に蟄居していた馮玉祥が共産党の協力のもと「察哈爾民衆抗日同盟軍」を結成した町でもある。1937 年 7 月の盧溝橋事件の 2 ケ月後には日本軍が張家口を占領し、傀儡「察南自治政府」を樹立。38 年には他の傀儡政府と合併した「蒙古聯合自治政府」の首都を置いた。45 年 8 月にはソ連・モンゴル人民共和国軍の連合軍が日本軍が激戦を繰り広げた。張家口には蘇蒙聯軍烈士記念塔が建立されており現在も犠牲者を顕彰する式典が行われている〕

2021 年 7 月 28 日、河北張家口市は北京 2022 年冬季五輪の関連施設として崇礼区太子城の氷雪小鎮（アイス＆スノータウン）を建設している。撮影：VCG/VCG via Getty Images

今年初め、習近平が崇礼にある高速鉄道の太子城駅と五輪会場を視察に訪れた。視察は太子城地区だったが、20 キロ離れた崇礼区の中心地ではすべてのバーが休業し、入り口が封印された。しかしなぜかカラオケバーは営業ができた。しかし今年はバーが営業停止になるまえに、カラオケバーが先に「コロナのため」休業となった。

カラオケバーは村の党支部書記（トップ）が経営している。姫発さんは党書記が所有している従業員寮で寝泊まりしている。カラオケバーは営業停止になったが、寮には住み続けている。姫発さんはタバコの「中華」（ハードケース）を一本差し出した。そして次にまたソフトケースの「中華」を差し出した。（「中華」はソフトケースがひと箱 65 元、ハードケースが 45 元する高級タバコ）

「おカネ持ちだね」
「カラオケバーのやつだよ」。姫発さんはちょっと照れ笑いした。

その日の晩、姫発さんは宣化のことを語った。「新中国が建国されてから数年のあいだ宣化もにぎわった。宣化鋼鉄廠〔以下、宣鋼〕が設立され、宣化の町全体を養った（記者注：宣鋼の親会社は全国第 2 位の河北鋼鉄グループ）。だけど今はひどい環境汚染が問題されて閉鎖された」

宣鋼には学校、病院もあり、宣化地区の一部の水道や暖房サービスも行ってきた。宣化の人口の三分の一が宣鋼で働き、鉄鋼の年間生産量は 800 万トンに達した。2019 年、河北省政治協商会議のある委員が「宣鋼の操業停止の一時緩和」という議案を提出したが、河北省発展改革委員会は「宣鋼公司が張家口

市から撤退することは、河北鋼鉄グループの長期的な発展にとって必要な事であり、北京・天津・河北ちくの大気環境にとっても必要なことで、張家口市の『首都水源保養機能地区および生態系環境地区』計画にとっても必要なことである。この業務計画は全省の鉄鋼減産計画にも組み込まれており、国に対しても実施を約束した事項である。」という回答をよこした。

そして今年 9 月に、宣鋼は完全に生産を停止し、その機能を河北省唐山に移した。河北省の党委員会書記（トップ）や省長も生産停止にあたって視察を行い、

河北省の党書記と知事が宣鋼を訪れて生産停止を視察し、「宣鋼のグリーン転換と高品質の開発の実際の成果が、冬季オリンピックの準備と首都と張家口の『二区』の建設に奉仕するという全体的な状況に役立つようにしてほしい」と要請した。
宣鋼が生産を停止した後、宣化の GDP は約 1/6 に、工業付加価値は約 1/3 に、工業生産高は約 2/3 に減少した。

「中国の政治の中心は北京ですが、経済の中心は上海です」と語る姫発さんは「中国で最も発展を遂げているのは、上海ではなく、深圳です」と続けた。

崇礼の新市街地の広場でバスケットボールをする若者たち。 冬季オリンピックの表彰式は、20 キロ離れた太子城という小さな町で行われる。 写真：Zhang Jingu/Tuan Media

私は彼に、南方に行こうと思ったことはないのか聞いた。彼は考えたが、北京には友人がいて、仕事が見つからなくても、しばらくは住むところにはこまらない。南方ではそうはいかない。「おカネがなくなってしまえば、見知らぬ土地で野垂れ死にだよ」。

姫発さんは「10 万元」ほど貯め、車を買うまでの間、家族に貯金してもらうようお願いしたという。「もし、全

部を手元に置いていたら、1分で全部使っちゃう」。

バーのマネージャーである KiKi は、カラオケバーで怒鳴り声をあげていた姫発さんを心配し、インドアサーフィンのインストラクターになるために北京に連れて行った。そこで 1 ヶ月弱働いたが、姫発さんは「自分には向いてない」と感じた。その後、彼がバーで勤め始めた最初の夜、バーのオーナーは姫発さんに、しっかりと仕事をするようにアドバイスした。オーナーは、カナダに留学したが、家の仕事を継ぐために崇礼に戻ってきたという。「だから彼は他の地元の同業者とちょっと違うんです」と姫発さんは考えている。

彼の年齢でこの地域に残っているのは「ちょっと肩身が狭い」という。崇礼の若者はほとんどが北京や張家口に行ってしまい、ここに残っている人はみんな彼よりも年上だ。姫発さんはスキー場のビジネスはなが続きしないのではないかと思っている。スキー愛好者はそれほど多くはないし「何度も来ると飽きてしまい、あまり来なくなるかもしれない」からだ。

姫発さんがツイートで送ってきたアドレスのアカウントはマカオのものだった。私をビリヤード場に連れて行く途中、彼はマカオに行ったことがあり、兄がカジノで働いていることを話してくれた。私たち二人は旧市街区のはずれにある橋まで歩き、古びた長屋式アパートの建物を見上げた。お兄さんがどうやってマカオのカジノで働くようになったのかを尋ねると、なんだかんだと方法はあるという答えが返ってきた。

「この町はやっぱり小さすぎるから」

旧市街区の衣料卸売市場のそばで中学生たちが迎えの車を待っていた。撮影：張晉谷/端傳媒

〔www.DeepL.com/Translator（無料版）で翻訳しました。〕